

特定非営利活動法人 釜石東部漁協管内復興市民会議

【活動分野】 防災

設立年 平成 24 年 活動地域 釜石市両石・箱崎など 8 地区 構成員数 43 人

活動のきっかけ

震災直後の混迷状態が続く平成 23 年 5 月、両石地区の避難所での生活を続ける人たちの中で「これからのまちづくり」を語り合う機運が高まり、半島部の地区にも広がりを見せるようになった。多くの地区をまとめ、本当の意味での「自分たちが主役のまちづくり」のため、法人の立ち上げに至る。



活動内容

東部漁協を構成する 8 地区（両石、根浜、箱崎、片岸、白浜、室浜、桑の浜、仮宿）から参加者を募り、毎月一回「まちづくり」に関する会議を開催。「交通の利便性を高め、観光を発達させたい」など住民が抱く様々な意見や要望を吸い上げ、支援団体や大学関係者、行政と協働しながら具体案まで発展させる。



市民会議の様子

活動の成果

まちづくりに対して様々な希望を持つ住民が一緒になってまち・集落の発展のために考える場ができ、実際に練りあがった案を市に提出するところまで進んだ。また都市計画や防災、まちづくりの専門家からのアドバイスも取り入れることで、参加者の知識とモチベーションの向上に繋がっている。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

参加者の多くは漁業などと並行して活動しているため、会議の内容や得た知識などを、参加していない住民へ効果的にフィードバックする点に苦労している。4 月からは復興支援員を受け入れており、活動成果の周知を図りながら、より濃い活動内容に繋がるよう工夫していきたい。

今後の展開

練りあがった案について、行政サイドに要望することは要望し、また自分達でできるものについては実行に移していき、復旧から復興、そして振興へと繋げていきたい。

代表者から一言メッセージ

若い人たちの意見をもっともっと聞いていきたいですし、また次世代を担う若いリーダーをもっと育成していきたいと思っています。復興のためには道路などのハード面と、まちの魅力を引き立たせるソフト面との両方の取組みが必要ですが、特にソフト面では若い人のアイデアとパワーが欠かせません。ぜひ一緒にまちづくりに参加していきましょう。

連絡先

〒026-0301 釜石市鵜住居町 5-24-3 田郷仮設団地 C 棟 4-5 号 (談話室) 電話 090-9035-6418

松原町内会自主防災会

【活動分野】防災

設立年 平成7年 活動地域 釜石市松原地区 構成員数 68世帯

活動のきっかけ

阪神淡路大震災の後、県内でも全市町村で自主防災会を設立するよう要請があったことから設置したが特に活動は行っていなかった。

その後、平成14年に土砂災害があり、地区内で2名の犠牲者が出たことで、防災活動の必要性を感じ、本格的な活動を始めた。



活動の様子（支援物資の受入①）

活動内容

震災前は、市担当者を招き、防災に関する研修会や地区独自の防災訓練等を行っていた。

震災直後は、津波が発生してからすぐに炊き出しを行い、次の日には松原地区自主防災会本部を設置。救援物資の配布や炊き出し等避難所の運営、安否確認、取材対応等を行った（3/12～8/9）。

8月10日に避難所を閉鎖した後は、毎月10日に松原地区の住民や松原地区に避難された方を主な対象とした「松原会」を行い、バラバラになった住民の交流を図っている。



活動の様子（支援物資の受入②）

活動の成果

自主防災会の活動に対する地域内外の理解が得られ、その大切さが認識されたと考えている。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

力の入れどころを見極めながら、あまり力を入れすぎないように心掛けている。

若年層の参加が少なく、構成員が高齢化している。また、若年層と高齢者では都合のつく時間が異なるため、会議等の調整にも苦労している。震災によって世帯数が3分の1に減少したこともあり、会費収入が減少し、活動のやりくりにも苦労している。

今後の展開

平成25年は岩手大学の学生に協力してもらい、ワークショップの開催を予定している。

平成14年の土砂災害をうけたことから、平成15年に簡単な防災マニュアルを作成し、地区内全戸に配布したが、今後はこのマニュアルを改訂し、改めて全戸配布を考えている。

代表者から一言メッセージ

自然災害は「いつかわが身」である。日頃から「運命共同体」である地域の方々とのつながりを大切にしてほしい。

連絡先

〒026-0004 釜石市松原町 1-5-13 松原町内会自主防災会事務局 電話 0193-22-2879

赤浜の復興を考える会

【活動分野】 防災

設立年 平成 23 年 活動地域 大槌町赤浜地区 構成員数 27 人

活動のきっかけ

東日本大震災津波の際、赤浜地区は陸の孤島になっていた。行政に全てを頼ることはできず、自分たちで何とかするしかないと思い、住民の有志数名が集まって活動を始めた。

その後、復興事業が進んでいくにあたり、自分たちが住んでいる地域の復興について、自分たちで考えることとし、平成 23 年 8 月に「赤浜の復興を考える会」を結成した。



赤浜地域復興まちづくり懇談会

活動内容

結成当初は、取材の窓口、支援物資の受入等、赤浜地区の避難所運営を行っていた。現在は、復興計画に基づき、仮設住宅入居者の安心・安全管理、団地内のコミュニティ形成の応援、内陸等他市町村への避難者の名簿作成及び安否確認、さらに、地元赤浜への復郷支援や、仮設住宅入居期限切れに伴う移転先の用地確保交渉等、地域復興の最前線で行政と連携をとりながら事業を推進している。



餅つきボランティア

活動の成果

住民一人一人の意見をまとめ上げ、大槌町に赤浜地区復興計画としていち早く提出し、高台移転に係る国土交通大臣同意が大槌町で最も早くなされた。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

活動費がないため、活動の際はすべて自腹である。

住民からの意見を一つでもとりあげようと心がけている。

具体的には、まちづくり懇談会等の説明会を行う際、体育館等で大規模に実施するほかに、仮設集会所等でも実施している。また、赤浜地区以外に転居している住民に対しても情報を通知している。

今後の展開

高台移転事業のサポートや、住民の意見を引き続き吸い上げることを通し、事業進捗を見守ることとしている。また、復興事業が終わった後には、水産業の振興に取り組むことも考えている。

代表者から一言メッセージ

各市町村が防災計画を出しているはずだが、それらを自分たちが住んでいる地区にあてはめ、それぞれ自分自身もう一度見直しをしてほしい。復興計画の完全実施が自分の目標である。

連絡先

〒028-1102 大槌町赤浜 2-2 赤浜第 2 仮設 3-1 赤浜の復興を考える会事務局 電話 090-9531-1110

特定非営利活動法人 @リアスNPOサポートセンター

【活動分野】環境・文化・交流、商工業

設立年 平成 16 年 活動地域 釜石市・大槌町全域 構成員数 14 人

活動のきっかけ

商店街活性化の一環として「まちづくり」に携わる活動をしてきたが、震災以降は、釜石・大槌地域の復旧・復興に関わる活動を包括的に展開している。「自分達が住むこの町に笑顔を取り戻したい」との想いで、地域住民と直接関わり共に復興を目指す活動や震災の風化防止等に取り組んでいる。

活動内容

- (1) 「釜石市仮設住宅団地支援連絡員配置事業」の運営
- (2) 職に関するマッチング
- (3) 「復興カメラ」の取組み
被災・復興の様子を記録に残し、県内外で写真展を開催
- (4) 中間支援NPOの立場を活かした団体間のコーディネート

活動の成果

仮設住宅支援では、NTTドコモや仙台市のソフトウェア開発会社と連携し、タブレット端末を使った見守りシステムを構築。関係者が住民の安否情報や相談事をリアルタイムで共有し、迅速な対応につなげている。

求職者にとって、事業者の情報が少ないことから事業者の情報をwebサイトで提供している。

写真展では、「時間の経過と共に震災の記憶は風化してしまうので、こういった活動は今後も続けてほしい」といった声が多く寄せられた。また、展示した写真パネルは他団体への貸出しも行っており、全国各地の復興イベント等で展示いただいている。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

NPO法人いわて連携復興センターを初め、県内外のNPO団体・企業・行政と情報交換の場を設けている。

安定した活動資金の調達に苦労している。

今後の展開

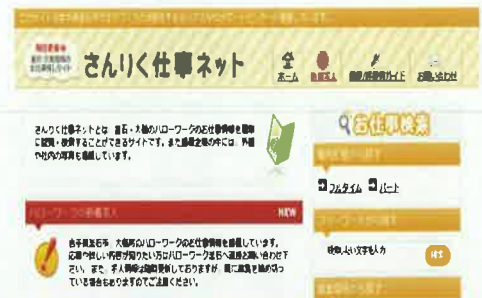
人と人との繋がりを大切にし、住民・行政・企業など釜石・大槌地域の「思い」を吸い上げ、地域のひとつの力となるよう、またプラットフォーム（育てる土壌）として支えることができるよう、今後も地域のお手伝いをしていきたい。

代表者から一言メッセージ

東日本大震災以前から活動する団体として、我々が復興に向けて何ができるかを住民の皆様と考えることで、市民自らが考える「暮らし良いまちづくり」を共に目指しましょう。

連絡先

〒026-0013 釜石市浜町 1-1-1-301 電話 0193-22-2421



職のマッチングサイト



「復興カメラ」写真展

A&F グリーン・ツーリズム実行委員会

【活動分野】環境・文化・交流

設立年 平成 10 年 活動地域 釜石市内 4 地区 構成員数 33 人

活動のきっかけ

『将来、子供達が故郷に帰ってきたとき、釜石が疲れていてはいけない、また、たくさんの観光客が釜石を訪れてほしい』と根浜地区、橋野地区の農漁業者や民宿の人達が中心となり、旧釜石農業改良普及センターの指導により設立。



田舎豆腐づくり

活動内容

Agriculture と Fishery、農林漁家民泊に地区ごとに取り組んでいる。

橋野地区：地元産大豆による田舎豆腐づくり、地元産蕎麦を使用した蕎麦打ち体験など、地域の食材を用いて体験するのが特徴。

根浜地区：ホタテやカキ、ホヤの養殖棚の作業、養殖したものの殻むき、網おこし体験など。現在は再開に向けて調整中。

甲子地区：甲子柿作り体験、干し柿作り体験等、甲子の特産品である甲子柿を活用した体験が特徴。

唐丹地区：季節に合った草木を使って、オリジナルの模様をつける、草木染め体験が人気。



網おこし体験

活動の成果

特に漁業体験が好評を博し、沿岸と内陸等との交流を通じて地域の活性化に貢献している。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

他団体と取組が重複しないよう、連携・協力しながら実施している。また、海岸は震災以降ガレキが散在し、工事車両が行き交う中、漁業体験ができる場所や船の確保に苦労した。

今後の展開

漁業体験は震災以降中断していたが、H25年3月に再開予定。また、農業体験は橋野地域のほか、甲子地域、唐丹地域にも拡大予定。さらに橋野高炉跡を体験コースに含めるなど世界遺産登録の機運醸成にも寄与したい。

代表者から一言メッセージ

震災の影響により、漁業体験は中止をせざるをえませんでした。2年が過ぎ、少しずつ再開の見通しがたってきました。震災前のように海と山を両方楽しめるメニュー、そして新たなメニューを開発して、釜石らしい自然の魅力を発信していきたいと思っております。

連絡先

〒026-0031 釜石市鈴子町 22-1 シープラザ釜石 2F 観光交流課内

A&F グリーン・ツーリズム実行委員会事務局

電話 0193-22-2111 【内線 332】

唐丹地区スポーツ・文化コミュニティクラブ実行委員会

【活動分野】環境・文化・交流

設立年 平成 13 年 活動地域 釜石市唐丹地区 構成員数 100 人

活動のきっかけ

平成 13 年 10 月に、「総合型地域スポーツクラブ」として団体を発足（通称：唐丹すぼこん）。スポーツだけではなく、文化活動も行いながら、健康で明るい町づくりを目指している。

活動内容

(1) 元気回復夢クラブ

会員自らの企画で、プールでの水中運動や筋力トレーニング等を実施している。

(2) 唐丹の歴史を語る会

震災から 2 年目の 3 月 11 日に、津波の体験集「千年後への伝言」を発行した。RCF 復興支援チーム等の協力を得ながら 116 名の体験談や被災の様子を収録している。

(3) 仮設住宅入居者健康運動教室

高齢者の体力維持を図るため、毎週 1 回、市内の仮設住宅等にてニュースポーツやストレッチ教室を開催している。最近では仮設住宅以外からの出張要望も多く、毎日開催の月もあるほど好評。



元気回復夢クラブ



仮設住宅入居者健康運動教室

活動の成果

字を書くことも健康を保つ秘訣の一つだが、会の活動に参加された方へ「一日千字書く」ことを薦めたことがあった。

元気回復夢クラブもそうだが、多くの人が自ら何かを始めるきっかけ作りにつながっている。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

寝たきりの人を増やさないよう体力維持に重点を置いている。健康運動は、競技スポーツのように人と勝敗を競うものではないため、自らのペースで楽しみながら活動が続けられるよう工夫している。

男性の参加が少ないことから、例えば屋外イベント等、男性が参加しやすい企画をしていきたい。

今後の展開

仮設対抗スポーツ大会の開催。

毎年の体力テストをとおして、来年の目標に向かって健康づくりに取り組んでいただく仕掛け作り。

健康診断で要注意判定を受けた方への生活改善プログラムの実施。なお、ご夫婦で参加いただくことで、より高い効果をあげられるよう工夫していきたい。

文化事業では、明治・昭和の大地震も含めた震災の資料集を作成することとしている。

代表者から一言メッセージ

健康になること自体が目的ではなく、健康になって何をするか、ということが大切です。私たちは震災で大切なものをたくさん失いましたが、これからもスポーツや文化を通じて、震災後の新しいコミュニティ形成に取り組んでいきたいと考えています。

連絡先

〒026-0034 釜石市中妻町 3-1 昭和園クラブハウス 釜石市体育協会内 電話 0193-23-1061

一般社団法人 三陸ひとつなぎ自然学校

【活動分野】環境・文化・交流

設立年 平成 24 年 活動地域 釜石市根浜、鶯住居、橋野地区 構成員数 4 人

活動のきっかけ

地域住民との多様な交流を通じて歴史文化、郷土料理、自然環境などの釜石の魅力を感じてもらうことでコアな釜石ファン(=リピーター)をつくり、交流人口を増やすことを目的に活動を開始した。

活動内容

(1) 地域復興ツーリズム

支援活動に観光の要素を加えたボランティアツーリズム(=ボランティア+農業・漁業・自然体験)を実施。

(2) 子どもの育ち場、学び場づくり

遊び場が少なくなってしまった子どもたちの居場所づくりや保護者のケアを目指し、仮設住宅談話室にて「放課後子ども教室」を実施。

(3) さんりく釜石わかもの塾

全国からのボランティアに地域の課題を共に考えてもらうため、地域の漁師や農家と共に行動してにぎわい創出などを行う。



子供向けソバ打ち体験



海岸清掃ボランティア

活動の成果

平成 24 年 4 月から平成 25 年 1 月にかけて日本各地、海外からの 54 件 1,115 名のツアーコーディネートを行い、活動したボランティアは数千人に上る。

わかもの塾で中長期に活動するボランティアは、より住民目線にたった活動が可能である。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

被災の有無にかかわらず、市内の地域間での格差を生まないようにしている。

仮設住宅を拠点としているなど、人・モノ・お金が不足している。

今後の展開

人が来るきっかけ、地域を好きになってもらうきっかけづくりとして活動を続ける。

復興ツーリズムを将来的にエコツーリズムとし、山と海をつなげる活動をしていきたい。

代表者から一言メッセージ

地域内外の交流を通じて、地域と一緒により良いものを作りたいです。地元に興味を持って活動し、それを次の世代につなげることで地域づくりを皆で続けていきましょう。

連絡先

〒026-0412 釜石市栗林町第 17 地割 25-1 栗林町第 2 仮設 B6-5 電話 0193-55-4630

一般社団法人 おらが大槌夢広場

【活動分野】環境・文化・交流

設立年 平成 23 年 活動地域 大槌町全域 構成員数 15 人

活動のきっかけ

震災後の平成 23 年 7 月に開催された「三陸夢会議 in 大槌」を契機に、町内外の有志が集まり議論を繰り返した。そして、夢会議で出された数々の意見を実現させ、多角的な復興まちづくりを進めるため平成 23 年 11 月に「一般社団法人おらが大槌夢広場」を設立。



こども議会

活動内容

「おらが大槌復興食堂」の運営、こども議会等の公共公益事業の実施に加え、外部への情報発信、地場産業やツーリズムの活性化、「ひと育て×まち育て大学」事業を通じた人材育成を行っている。



「ひと育て×まち育て大学」

活動の成果

復興食堂には、累計約 32,000 人の方々に訪れていただいた（平成 25 年 2 月末時点）。また、ツーリズムの受入は累計約 10,000 人にのぼっており、企業研修も多数受け入れている。

内閣府「社会起業インキュベーション事業」等を活用した支援を行い、2 名が独立に至っている。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

先行事例を参考にしながら事業を進めている（ツーリズム先進地である長崎県小値賀島に学ぶなど）。また、内部（町民）からの目線だけでなく、外部からの目線を事業に取り入れていくよう努めている。

個々の事業において、実施後の振り返りを徹底することや、事業間の連携をさらに深めることが課題である。

今後の展開

「おらが大槌復興食堂」が独立して採算が取れるよう、軌道に乗せていく。

ツーリズムについては、農作業体験等をコンテンツとした民泊や外国人旅行者の受入を新たに実施する。また、民泊の実施に伴い、古民家の再生も実施していく。

「ひと育て×まち育て大学」の活動を通し、将来の町づくりを担う人材の育成を行い、町全体を盛り上げていきたい。

代表者から一言メッセージ

これからいよいよ本格的な復興になっていく中で、おらが大槌夢広場は復興のフロントランナーとして、さらに夢の種を蒔き、育てる活動をしていきます。

連絡先

〒028-1115 大槌町上町 6-3 電話 0193-55-5120

特定非営利活動法人 吉里吉里国

【活動分野】農林水産業・商工業

設立年 平成 23 年 活動地域 大槌町吉里吉里・浪板地区 構成員数 12 人

活動のきっかけ

震災直後、避難所に設置された入浴施設の燃料として、倒壊した家屋の廃材を利用していたが、支援ボランティアの提案で2ヵ月後の5月15日から「復活の薪」として販売を開始した。

地域の豊かな森や海を後世に受け継いでゆく活動をしながら、なりわい再生による新規雇用の創出にも取り組んでいる。



加工の様子

活動内容

(1) 林業大学校の開催

平成 23 年 6 月より毎月 1 回開催しており、座学に加え、間伐作業の実施研修も実施。

(2) 間伐材を建築用材や復活の薪に加工して販売

(3) 森林教室の開催

平成 23 年 11 月に 1 回目を開催し、41 名が参加した。



次の世代への恩送りを目指す

活動の成果

これまで 50 名程度がチェーンソーの資格を取得するなど、地域の後継者育成に寄与している。

建築用材はこれまで 10 回出荷し 200 万円程度の売上げがあったほか、「復活の薪」の第 1 弾は販売開始から半年余りで 5,000 袋を完売するなど、全国各地から大きな反響があった。

活動開始直後より現在の方が、ボランティアの数が増えているなど地域内外の交流に寄与している。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

余計な手間をかけずにシンプルな商品開発を心がけている。

雇用の数を少しでも増やすため、機械は極力使わず、人力での作業を中心としている。

森林教室は、町外に比べ町内の参加者が少なかったため、今後さらに周知していきたい。

今後の展開

炭焼小屋を作り、杉を使った炭の商品開発を行いたい。杉は広葉樹の炭より脱臭・湿度管理等に効果があり、安価に生産できる。

代表者から一言メッセージ

これまで、都会と比べ自分たちの町に貧しさを感じることもありましたが、震災後はそういった考えが変わってきました。豊かな森や海に囲まれたこの町で、心豊かに暮らす人達が増えていくよう、我々が先人から受け継いできた恵を次の世代に「恩送り」していきたいと思えます。

連絡先

〒028-1011 大槌町吉里吉里 3-6-28 電話 090-7931-5749

特定非営利活動法人遠野まごころネット

まごころの郷

【活動分野】農林水産業、環境・文化・交流

設立年 平成 23 年 活動地域 大槌町大槌地区 構成員数 50 人

活動のきっかけ

被災者とボランティアがともに憩う場所としてオープンした大槌「まごころ広場」。被災者・ボランティアの働く場の確保が課題となっていた時、地元住民の方々から休耕地の有効活用の提案やNPO団体等支援者からの設備等の支援があったことにより、「まごころの郷」づくりが始まった。



住民・ボランティアによる農園づくり

活動内容

小槌、大槌の仮設団地付近3箇所に農園を開設。野菜、花、ハーブ等を栽培。被災した安渡地区の水田に残った稲から採取した米のブランド化を計画。

弁当屋の開店支援、仮設商店街の運営手伝い、伊豆からの「友情ひじき」の販売を通じた起業・雇用支援を実施。

お茶会、カラオケ大会等の開催による地域コミュニティづくりを実施。



カラオケ大会の様子

活動の成果

農を通して、被災者・近隣住民とのコミュニケーションを図り、被災者の心のケアにつなげた。

地域の固有種の活用や自然農法の採用、観光ボランティアの受け入れにより、都市部の企業等への理解増進につなげ、販路拡大・雇用創出を図った。

活動にあたって工夫している点、苦労している点

被災地にある課題は全国の地域と共通の課題である。しかし、法律や制度が変わっていないので、例えば浸水区域等に仮設店舗を設置できないなど制約があることから、実現できない取組が多い。少しでも実現できる方法を行政とNPO、被災者が一緒になって検討する必要がある。

今後の展開

被災者の間で所得格差が広がっている。まずは生業を確保することが先決。そのための起業・雇用支援を充実させる。地域コミュニティづくりも継続。

代表者から一言メッセージ

外部の支援も頂きながら、やれることから一つ一つ大きくしていく。前を向いて進めていきたいです。

連絡先

〒028-1132 上閉伊郡大槌町大ヶ口 1-1-38 NPO 法人遠野まごころネット大槌事務所内
電話 0193-42-7666